

博報堂教育財団 こども研究所が「小中学生に聞いたおこづかい事情」調査の結果を発表

おこづかいの1ヵ月平均金額は小学生*:1,657円、中学生:3,234円。
 子どものおこづかい総額が1年前より増えたと回答した保護者は約4割*。
 増額理由は「学年が上がった」に加えて「物価高への対応」なども。

*小学生=小4~小6生(以下同様)
 **とても増えた+やや増えた計(以下同様)

公益財団法人 博報堂教育財団の調査研究機関 こども研究所では、全国の小学4年生~中学3年生を対象に、子どもをとりまくさまざまなトピックスについて調査を実施しています。
 今回は、新学期を前に子どもの「おこづかい」に関する調査を行いました。進級・進学を控え、「おこづかいをいくら、どう渡すか」に悩む保護者も多いのではないのでしょうか。今回の調査結果では、おこづかいの1ヵ月平均金額は小学生:1,657円、中学生:3,234円でした。保護者の回答では、1年前よりも子どものおこづかい総額が増えたのが約4割で、理由としては「学年が上がった」「物価高への対応」などが挙げられました。また、もらう方法は「現金」が9割強と主流ですが、中学生では「QRコード・バーコード決済アプリ」が17.1%となりました。子どものおこづかい事情には進級・進学のほかには世の中の経済状況も反映されているようです。

●おこづかいの1ヵ月平均金額

子どもの回答

Q. 1ヵ月に合計でいくらぐらいもらっていますか。金額を教えてください。

<1ヵ月のおこづかい金額に回答した人ベース>

小学生 (385人)

1,657円

2023年調査より +320円

中学生 (458人)

3,234円

2023年調査より +458円

*令和5年のおこづかい事情」2023年7月調査より

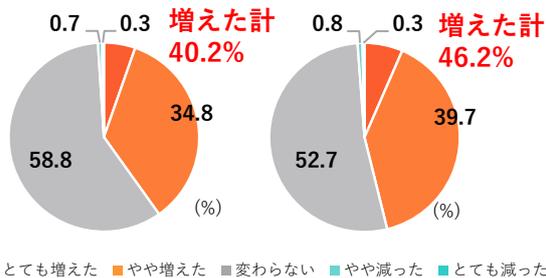
●おこづかいの増減

保護者の回答

Q. 1年前と比較して、お子様のおこづかい(月々の定額+臨時分)の総額は増えましたか。

小学生の保護者(600人)

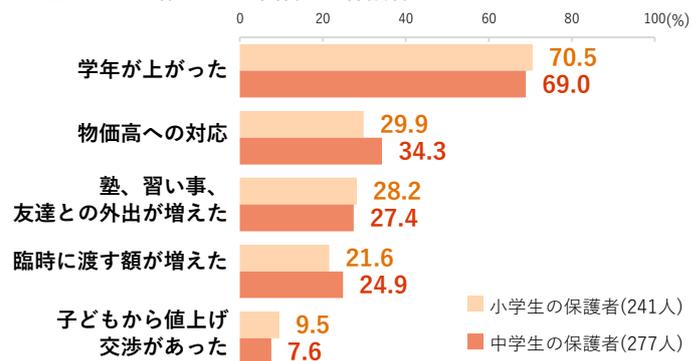
中学生の保護者(600人)



●おこづかいの増額理由

Q. おこづかい額が増えた理由について教えてください。(複数回答の上位5項目)

<おこづかいが増加したと回答した保護者ベース>



■「小中学生に聞いたおこづかい事情」調査 結果のポイント

- おこづかいの1ヵ月平均金額は小学生:1,657円、中学生:3,234円。(2023年調査より小学生320円、中学生458円増額)
- 子どものおこづかいの総額が1年前より増えたと回答した保護者は約4割。増額理由は「学年が上がった(約7割)」に加えて「物価高への対応(約3割)」なども。
- おこづかいの使いみちは小中学生ともに「おかしやジュース」「本やマンガ」。小中学生の間で差が大きいのは「外でお茶・ごはん」「遊びに行くときの交通費」。
- おこづかいを「毎週または毎月決まった金額」でもらう小学生は44.8%、中学生は61.5%。
- おこづかいのもらい方は「現金」が小中学生ともに9割。「QRコード・バーコード決済アプリ」でもらうことがある中学生は17.1%。
- 「子どもも、お金のことをもっと勉強したほうがいい」「友だちとお金のやりとりは、もめごとになりやすい」「おこづかいはむだづかいしたくない」「お金持ちになりたい」が9割。

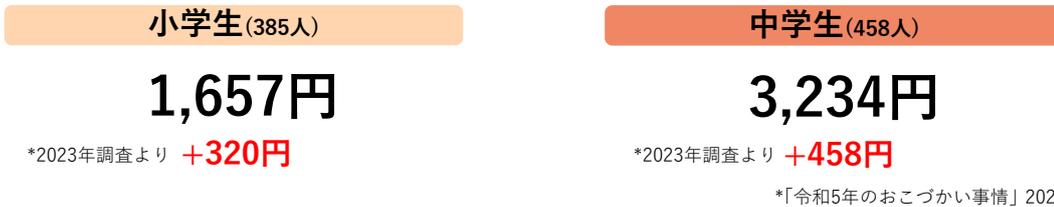
1. おこづかいの1ヵ月平均金額は小学生:1,657円、中学生:3,234円。
(2023年調査より小学生320円、中学生457円増額)

- 1ヵ月のおこづかい平均額は、小学生が1,657円、中学生が3,234円でした。こども研究所が2023年に実施した調査と比較して小学生320円、中学生458円とそれぞれ増加しました。
- 金額帯別でみると、小学生で最も多いのは「1,000円以上～2,000円未満」で34.8%、中学生では「3,000円以上～4,000円未満」29.5%でした。
- おこづかいの満足度を聞いたところ、小学生では66.0%、中学生では67.7%が「満足している」(とても満足している+まあ満足している計)と回答しました。

●1ヵ月のおこづかい平均額

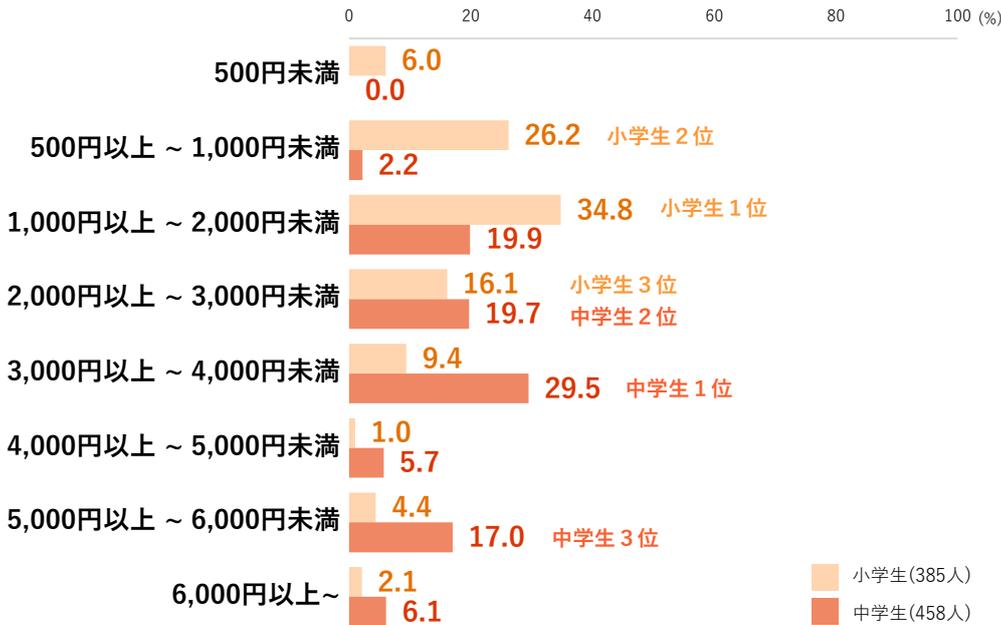
Q. 1ヵ月に合計でいくぐらいもらっていますか。金額を教えてください。

<1ヵ月のおこづかい金額に回答した人ベース>



*「令和5年のおこづかい事情」2023年7月調査より

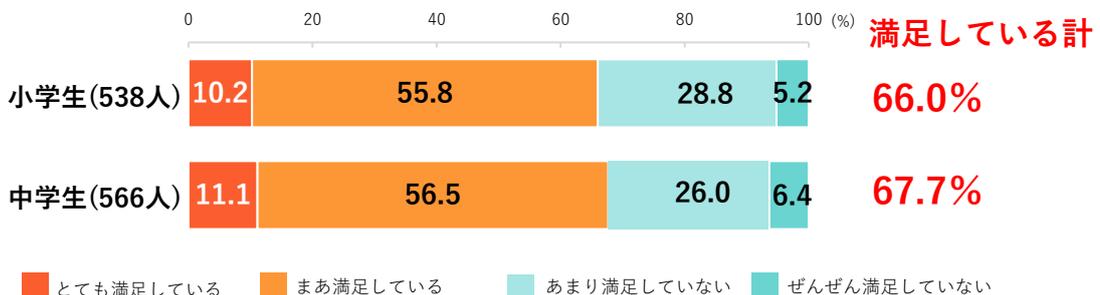
<1ヵ月のおこづかい金額帯別>



●おこづかいの満足度

Q. いまのおこづかいのもらい方や金額に満足していますか。

<おこづかいをもらっている人ベース>



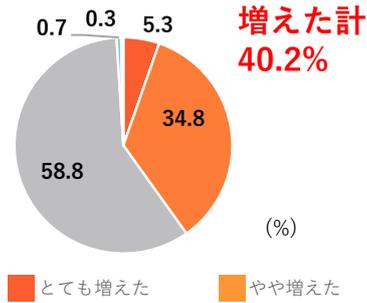
2. 子どものおこづかいの総額が1年前より増えたと回答した保護者は約4割。増額理由は「学年が上がった(約7割)」に加えて「物価高への対応(約3割)」なども。

- 保護者に「1年前と比較して、おこづかい(月々の定額+臨時分)の総額は増えたか」聞いたところ、小学生では40.2%、中学生では46.2%が「増えた」(とても増えた+やや増えた計)と回答しました。
- 増額理由は小中学生ともに、「学年が上がった」「物価高への対応」「塾、習い事、友達との外出が増えた」といった声が挙がりました。

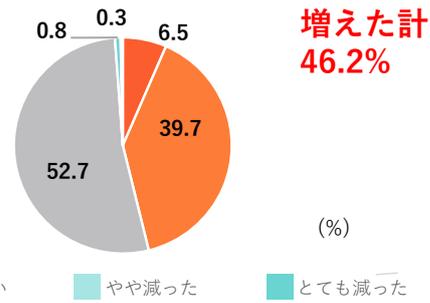
●1年前比較：おこづかい総額の増減

Q.【保護者】1年前と比較して、お子様のおこづかい(月々の定額+臨時分)の総額は増えましたか。

小学生の保護者(600人)



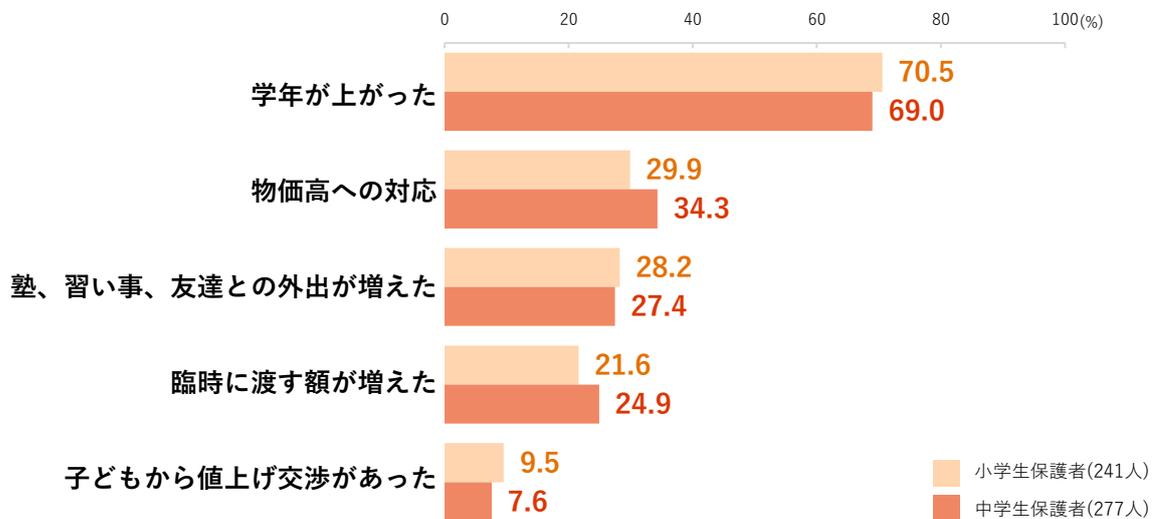
中学生の保護者(600人)



●おこづかいの総額が増えた理由

Q.【保護者】おこづかい額が増えた理由について教えてください。(複数回答の上位5項目)

<おこづかいが増加したと回答した保護者ベース>



●我が家のおこづかいルール

Q.【保護者】おこづかいに関してご家庭のルールはありますか。(自由回答)

■おこづかいを渡すタイミング

- 1ヶ月に決めた金額以上はあげないこと。自分で考え使うこと。(小5女子/保護者)
- 月1回制。本当に必要な物があれば、その都度判断して、おこづかいと別に渡す。(中2女子/保護者)
- 月2,000円。友達と外食やカラオケに行くときは臨時で500円~1,000円程度(中1男子/保護者)

■おこづかいの使い方

- 使い方は自由だが、1人で買い物には行かない。買う前に大人に確認する。(小4男子/保護者)
- 所持金は使う分だけ持って行く。ほしいものが所持金で足りないなら買わない。(小5女子/保護者)
- あまり使いすぎないように、何に使うのかを事前にきちんと説明できるようにしてもらう。(中1男子/保護者)

■おこづかいの管理方法

- 計画的に使用し、できるだけ何に使ったか記録。欲しいものがある時は目標額を設定する。(小4男子/保護者)
- お小遣い帳を書くこと。何にどれだけ使ったか把握出来るようにすること。(中1女子/保護者)

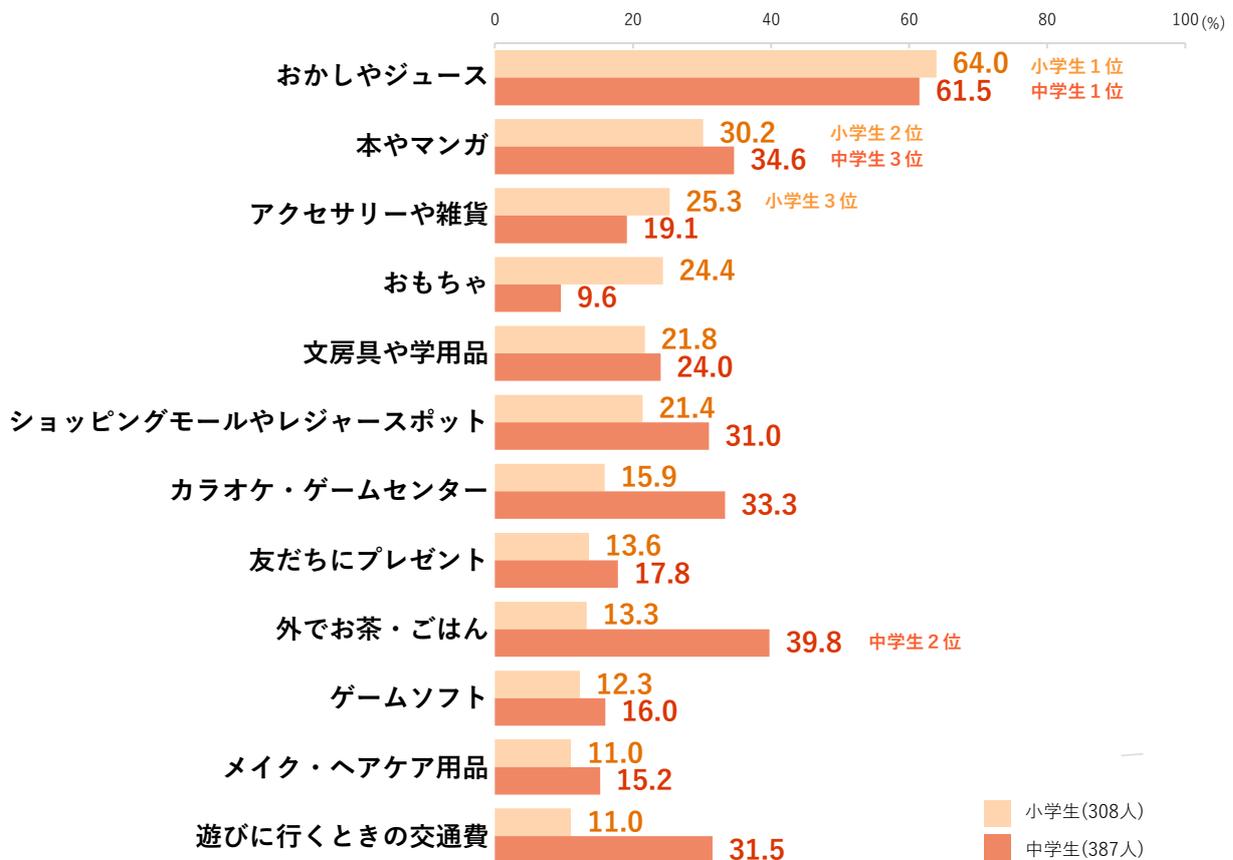
3. おこづかいの使いみちは小中学生ともに「おかしやジュース」「本やマンガ」。小中学生の間で差が大きいのは「外でお茶・ごはん」「遊びに行くときの交通費」。

- おこづかいの使いみちは、小中学生ともに「おかしやジュース」が6割で最多、次いで「本やマンガ」が3割。
- 小中学生を比較して15ポイント以上の差があったのは「外でお茶・ごはん」「遊びに行くときの交通費」でした。
- 属性別にみると、小中学生全体と比較して小学生男子では「おもちゃ」が31.6%(+15.5pt)、小学生女子では「アクセサリーや雑貨」が38.4%(+16.5pt)、中学生男子「ゲームソフト」が26.7%(+12.3pt)、中学生女子「外でお茶・ごはん」が46.4%(+18.4pt)と差がみられました。

●おこづかいの使いみち

Q. あなたはふだん、どんなもの・ことにおこづかいを使っていますか。(複数回答の上位12項目)

< 1ヵ月のおこづかい使用金額に回答した人ベース >



小学生男子 (136人)

順位	項目	割合	小中学生計との差
1位	おもちゃ	31.6%	+15.5pt
2位	ゲームアプリに課金	17.6%	+4.8pt
3位	ゲームソフト	19.1%	+4.7pt
4位	本やマンガ	36.8%	+4.1pt
5位	おかしやジュース	64.7%	+2.1pt

中学生男子 (191人)

順位	項目	割合	小中学生計との差
1位	ゲームソフト	26.7%	+12.3pt
2位	ゲームアプリに課金	23.0%	+10.2pt
3位	外でお茶・ごはん	33.0%	+4.9pt
4位	遊びに行くときの交通費	27.2%	+4.8pt
5位	スポーツ道具	6.8%	+3.8pt

小学生女子 (172人)

順位	項目	割合	小中学生計との差
1位	アクセサリーや雑貨	38.4%	+16.5pt
2位	文房具や学用品	29.7%	+6.6pt
3位	メイク・ヘアケア用品	18.0%	+4.6pt
4位	家族にプレゼント	9.9%	+4.3pt
5位	友だちにプレゼント	19.2%	+3.2pt

中学生女子 (196人)

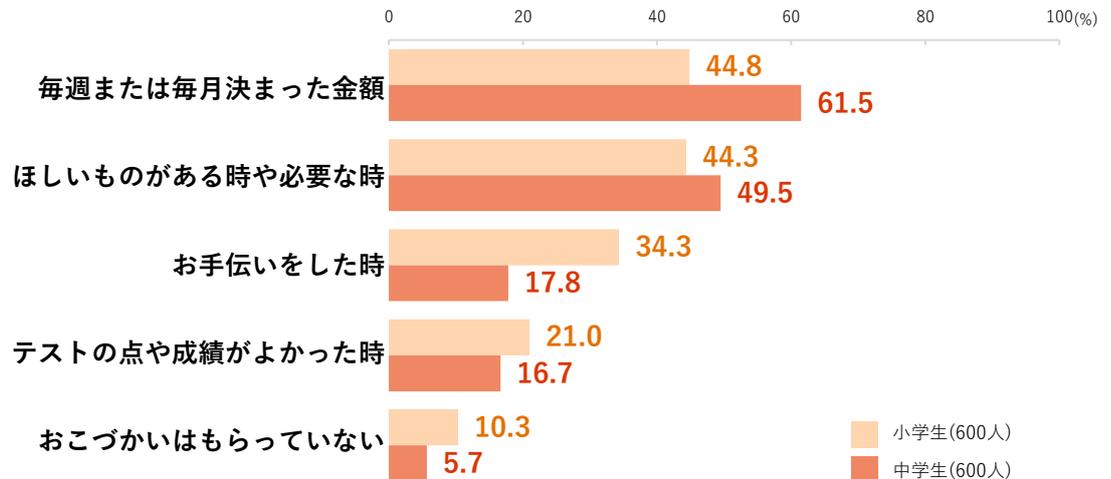
順位	項目	割合	小中学生計との差
1位	外でお茶・ごはん	46.4%	+18.4pt
2位	友だちにプレゼント	32.1%	+16.2pt
3位	メイク・ヘアケア用品	29.1%	+15.7pt
4位	カラオケ・ゲームセンター	40.3%	+14.7pt
5位	遊びに行くときの交通費	35.7%	+13.3pt

4. おこづかいを「毎週または毎月決まった金額」でもらう小学生は44.8%、中学生は61.5%。

- おこづかいを「毎週または毎月決まった金額」でもらう小学生は44.8%、中学生は61.5%でした。中学生の方が定期定額でもらうことが多いようです。
- 「ほしいものがある時や必要な時」におこづかいをもらうのは小中学生ともに、それぞれ約半数存在しました。
- 「お手伝いをした時」におこづかいをもらうのは、小学生が34.3%に対し、中学生は17.8%でした。

●おこづかいをもらうタイミング

Q. おこづかいはもらっていますか。(複数回答)



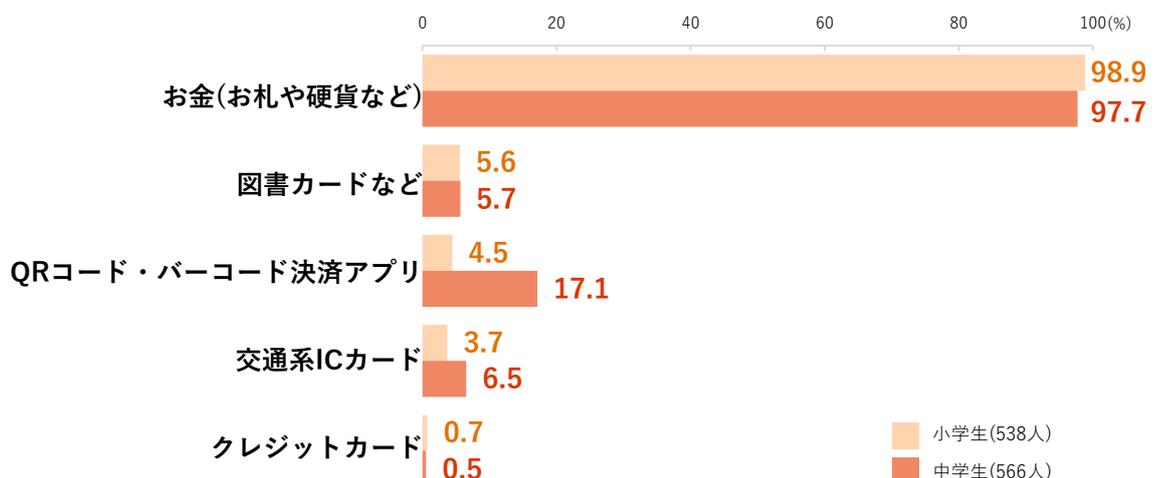
5. おこづかいのもらい方は「現金(お金)」が小中学生ともに9割。「QRコード・バーコード決済アプリ」でもらうことがある中学生は17.1%。

- おこづかいのもらい方は「現金」が小学生98.9%、中学生97.7%といずれも9割強でした。
- 「QRコード・バーコード決済アプリ」が小学生では4.5%に対し、中学生では17.1%にのぼり、小学生より中学生が12.7pt高い結果となりました。

●おこづかいのもらい方

Q. おこづかいはどのようなかたちでもらっていますか。(複数回答)

<おこづかいをもらっている人ベース>

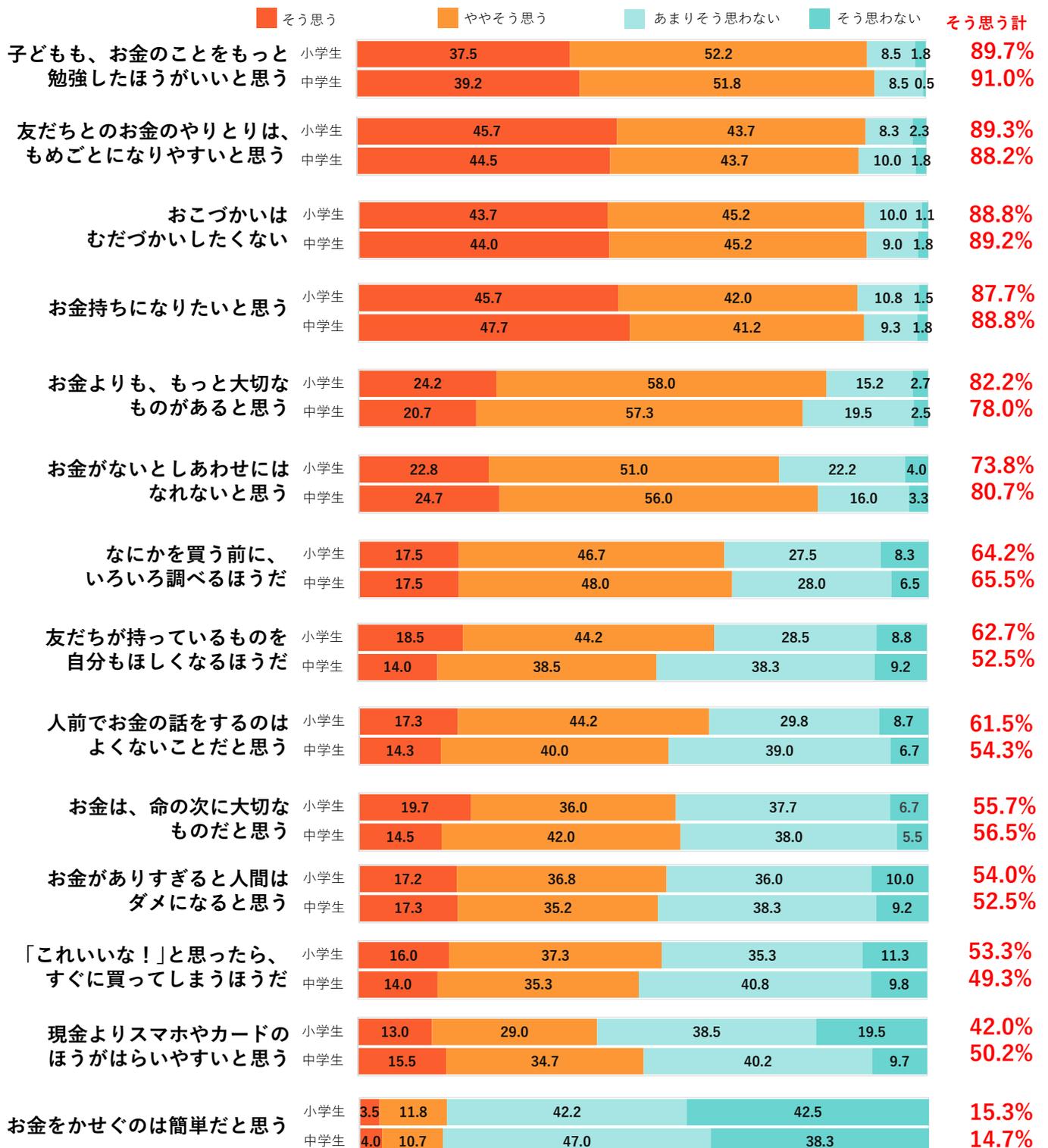


6. 「子どもも、お金のことをもっと勉強したほうがいい」「友だちとお金のやりとりは、もめごとになりやすい」「おこづかいはむだづかいしたくない」「お金持ちになりたい」が9割。

- お金に関する様々な意識について子どもたちに聞いてみたところ、そう思う計(そう思う+ややそう思う)では、「子どもも、お金のことをもっと勉強したほうがいいと思う」(小学生89.7%、中学生91.0%)、「友だちとお金のやりとりは、もめごとになりやすいと思う(小学生89.3%、中学生88.2%)」、「おこづかいはむだづかいしたくない(小学生88.8%、中学生89.2%)」、「お金持ちになりたいと思う(小学生87.7%、中学生88.8%)」がいずれも9割でした。
- 小中学生の間で比較的差が見られたのは、「お金がないとしあわせにはなれないと思う(小学生73.8%、中学生80.7%)」「人前でお金の話をするのはよくないことだと思う(小学生61.5%、中学生54.3%)」でした。

●お金に関する意識

Q. 次にあげるお金に関することについて、あなたの考えに一番近いものを教えてください。



調査結果に関する研究員コメント

子どもと外出した際、商品の価格を見た子どもから「これ私のおこづかいの数ヵ月分！」と言われたことがありました。私自身は特段、金銭感覚を身に付けてほしいという強い思い入れもなく、おこづかいを月ごとに渡していましたが、子どもにとっては毎月のおこづかいがお金の感覚を養うひとつの物差しになっていたのかもしれない。時には祖父母からの臨時収入もありつつ、子どもは日常の中で「これを我慢したらあの小説が買えるかな」など想像しながらやりくりしているようです。「金融教育」というと少し敷居が高く感じられますが、意外にも身近な生活の中でおこづかいのもつ大きな意味を感じました。新生活を控えたこの時期、本調査が各ご家庭の「おこづかい」の目安やルールなどを考えるきっかけとなれば幸いです。

「小中学生に聞いたおこづかい事情」調査概要

- ◆調査手法 : インターネット調査
- ◆調査実施日 : 2026年2月1日(日)
- ◆調査エリア : 全国
- ◆企画・分析 : 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所
- ◆調査対象者 : 小学4年生～中学3年生
- ◆実施・集計 : QO株式会社
- ※調査にあたっては事前に保護者の承諾を得て行っています。
- ◆調査パネル : 株式会社マクロミル
- ◆サンプル数 : 有効回答数 1,200人

※「令和5年のおこづかい事情」調査概要
調査対象者：小学4年生～中学3年生男女600人
調査実施日：2023年7月2日

学年	性別		計
	男子	女子	
小学4年生	100	100	200
小学5年生	100	100	200
小学6年生	100	100	200
中学1年生	100	100	200
中学2年生	100	100	200
中学3年生	100	100	200
合計	600	600	1,200

	父親	母親	計
30代	65	111	176
40代	402	336	738
50代	214	72	286
合計	681	519	1,200

公益財団法人 博報堂教育財団／こども研究所について

【公益財団法人 博報堂教育財団】

博報堂教育財団は、児童に対する国語教育と視覚・聴覚障がい者に対する教育を助成し、あわせてその活動に関する調査を行うことで、健全な人間形成に寄与することを目的に、1970年に財団法人博報児童教育振興会として誕生いたしました。その後、2011年に公益認定を受け、2020年に現在の名称に変更しました。

設立から50年以上を経た今日では、「子ども」「ことば」「教育」を活動領域ととらえ、設立以来の事業である児童教育の実践者を顕彰する「博報賞」をはじめ、「児童教育実践についての研究助成」「教職育成奨学金」「日本語交流プログラム」「日本語教育プログラム」「社会啓発事業」「調査研究事業」など、さまざまな活動を行っています。

【こども研究所】

博報堂教育財団 こども研究所は、弊財団の調査研究事業の一環で、2017年に設立されました。独自の調査や実験的な取り組みで子どもの姿をありのままにとらえ、その新たな可能性を発見します。さらに、それを社会と共有することで、子どもに対する見方やイメージを広げていくことを目指しています。

こども研究所ホームページでは、調査研究の結果を広く公開しています。

<https://kodomoken.hakuhodofoundation.or.jp/>



本件に関するお問い合わせ

■ 公益財団法人 博報堂教育財団 こども研究所 亀田・田口

<https://www.hakuhodofoundation.or.jp/contact/> (財団お問い合わせページ)